

6 経 済

経済はむしろ社会的、政治的なものと切りはなすことはできないし、親族というものが充分考慮されなければならない。経済の中での生産や財産制度というものは、最も重要なことである。生産については、“狩・農・漁”の項で述べているので、ここではそれらをふまえて、分業、物々交換、分配を中心に、ヤノマム族における経済の概要を述べてみよう。

ヤノマム族にとって生産とは、生きるための食糧（マンジョーカ、バナナ、鳥、ケモノなど）を獲得すること、あるいはそれらを獲得するための弓矢やバスケットを、またハンモックや腰まきをつくるための木綿糸などを製作することである。

生産された財の一部は交換の対象となる。交換の相手は他の部族、あるいはそれ以外（特にFUNAI等）である。部落単位で行なう交換の場合は、交換物は首長から部落の成員に対し分配がなされる。以下、分業、交換、分配を中心に彼らの経済価値、あるいは財産制度についてふれていく。



マキ割りは女性の仕事。彼女たちはたくましい。

分業 性別、地位、能力と業績、年齢などの条件によって規定されるが、ここでは彼らの働きを、男女の分業を中心として表にあらわしておく。

◇ 性 別 に よ る 分 業

主 体 作 業	男 の み	女 の み	男 女	備 考	主 体 作 業	男 の み	女 の み	男 女	備 考
部落の建設	○				交 換	○			
武器の作成	○			上手下手あり	ベットの世話			○	
楽器の作成	○				火おこしと管理			○	
カヌー建造	○				糸紡ぎ			○	麻を撚るのは男
まき割り		○			水くみ		○		
装飾品の作成			○		調 理			○	獣等は男がさばく
皮のなめし	○				育 児		○		
					バスケット編み		○		

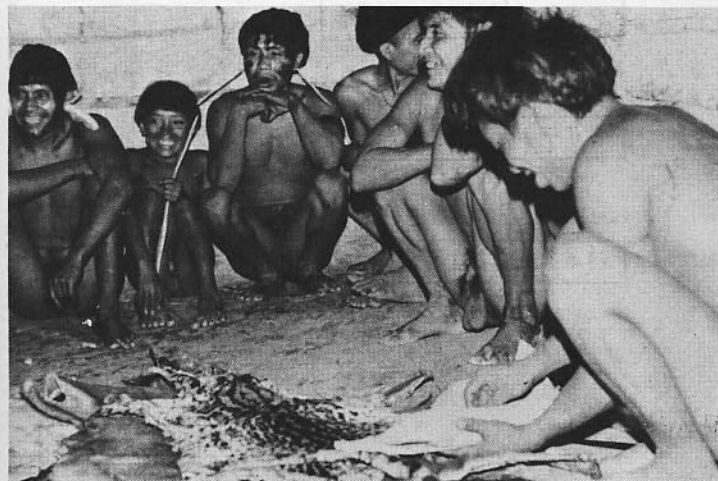
交換 ヤノマム族の交流は非常に活発でその行動範囲もきわめて広く、彼らには文明人が勝手に決めた国境などというものは通用しない。彼らはまた、氏族や親族という結びつきの強さから、親縁者や出自集団をたずねて1週間や1カ月におよぶ旅をすることがたびたびある。この場合には、例えば、多くの例がみられたように、知人や親戚に土産を与え、そのかわり食事を提供してもらう。そして、こんど相手側が自分のところへ来る際に、何かを相手よりもらい受ける、ということである。

交換物品は、それぞれの特産品的な要素のあるものが用意される。一般に食糧品は、交換物品というよりは、提供する程度にとどまる。ホコテリ部落においては、タバコがよくできるので、他の部落のものはタバコが欲しくなればホコテリ部落に行くか、ホコテリの連中が来た際にタバコと交換するのである。我われが今回の旅行で得た交換品は、ブリニョ部落の弓矢、ワイカ族のカゴ類、パラフリ族トメ部落の首かざりなどである。また、FUNAIのポストにいるパキダリ族には、「文明品」の入る機会が多

く、インディオ間の交換に、おもに文明品を用いている。交換物品は時として何100kmも移動することがあり、ブラジル側には土質の関係でできない土器製品がベネズエラ方面の部族より入ってきているのがみられる。

こうしたインディオ同士の交換のほか、文明人との交換がある。これは、保護政策がひかれているためFUNAIとミッションとの交換が唯一のものとなっている。FUNAIは、カヌーによって彼らの欲しい品物を積んで、年に3回程度この地域に入る。またミッションは、部落の近くに飛行場を作り、そこから品物を入れている。インディオの欲しい品物は、刃物類（山刀、包丁）ビーズ玉、衣類、ハサミ、針、テグス、針金、銃、食器、マッチ、塩、医療品などである。我われも、彼らから食料をもらった時とか、何かを手伝ってもらった時は、必ず品物を渡すという具合で、反対に彼らに物を提供すると、必ず我われに食糧などをくれた。

交換の際の相場は一応あるが、我われから見ればこの相場が実に奇妙なもので、およそ我われの経済価値では考えられないようなものであ



年数回のFUNAIとの「交換」が、ヤノマムたちにとって最大のたのしみである。男たちはニコニコしてこれを見守るのである。このとき、首長は敏腕のマネージャーとなる。

写真はシリアナ族ロベルト部落の交換風景。重要な交換財のオンサの毛皮を並べている。

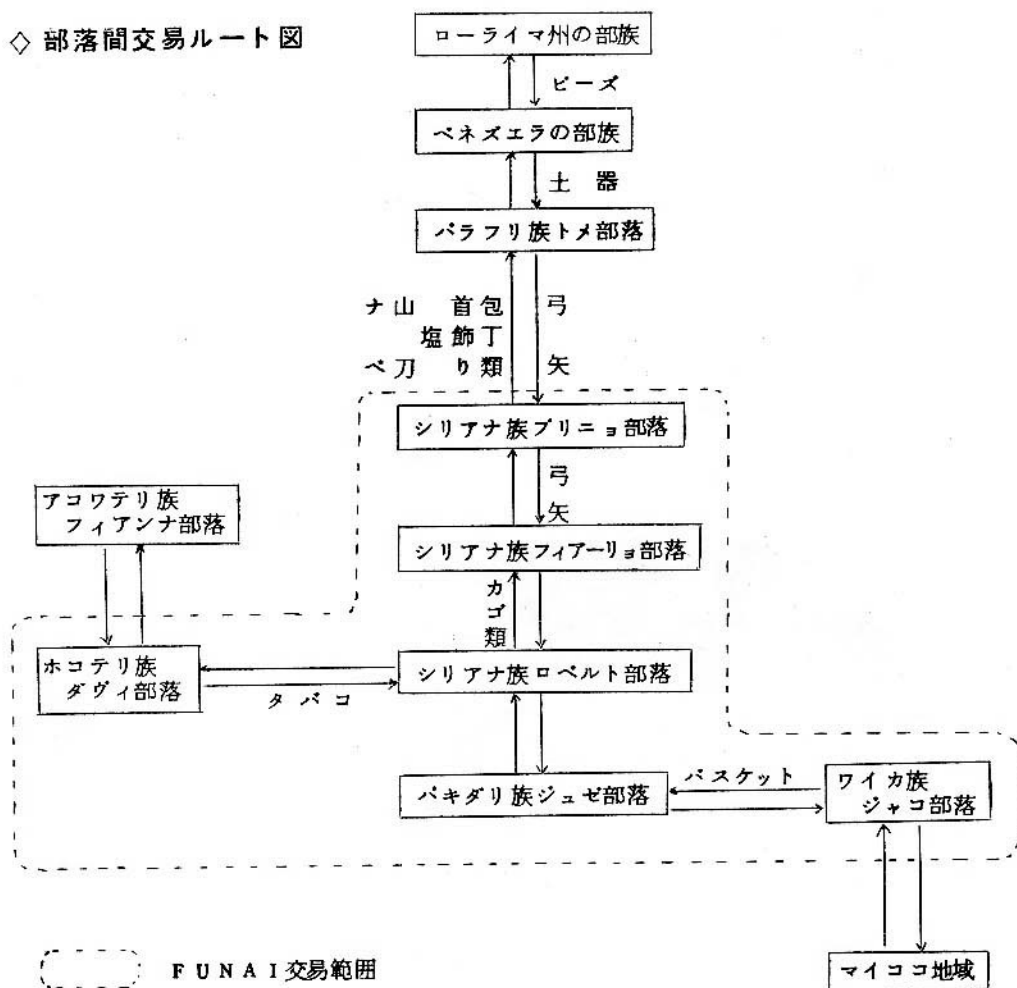
る。つまり毛皮1枚と銃の弾丸1箱、大型バスケットと小刀、弓矢と下着1枚というような具合である。FUNAIとの交換で、FUNAIが主として欲しているものは毛皮(オンサ)である。そしてFUNAIは「文明品」を一つの部落に片よることなく、いくつかの部落に行き渡るように分けている。

ミッションの場合は、FUNAIなどとは異なり、物と物との交換によって文明品を入れるのではなく、仕事を手伝ってもらった時に、そ

の礼として彼らに品物を与えるという、つまり労働の報酬としてである。

我われの場合は、首長の欲するようなものをあらかじめ別にとっておき、あとは自由に個人的に物々交換をしていった。我われの着ているおんぼろのシャツでさえも、彼らにとればめずらしく、また貴重で重宝なものであるから、シャツ一枚と、ザルー杯のサツマイモというような交換レートになったことがある。

◇ 部落間交易ルート図



分配 インディオ間の交易は、ほとんどの場合、個人間のものであるが、FUNAIなどとの交易の際は首長が代表して交換、交易をする。FUNAIからの「文明品」は首長によって公平に分け与えられる。しかし、よく働く者や、集団内での地位の高い者には、多く分け与えているようである。我われが入った部落では、首長が最も物持ちであるように思えた。しかし、分配に対する不満を聞いたことがないことから、平等性はかなり高いと思われる。

所有 ロベルト部落の一族あたりの所有物を記したが、これらはどこの部落のどの成員についても、ほぼ同様のものである。

彼らは自分の所帯道具を、近くに旅する場合（2～3日以上）にも持ち歩くのである。このとき、道具を持つのはほとんど女性である。

土地の所有については、各個人はそれぞれ個々の農地を持っている（「農」の項参照）。しかし、これも私有地というよりも、共同体のものとしての性格が濃い。

◇ロベルト部落の世帯の平均的家財

ハンモック	各自（1）
ナベ*	（2）
包丁*	（1）
皿 *	（2）
水入れ（ひょうたん）	（多）
土の容器	（多くて1）
コップ（ひょうたん）	（多）
オノ*	（部落に3つ程）
ナイフ（骨製）	（1）
山刀*	（1）
弓	（3）
矢	（5）
棍棒（農具）	（1）

但し、*印は文明人が入れたもの

＝ ケ チ ＝

彼らは必要以上に“物”を保有しない。彼らにとって包丁や山刀、それにハンモックや腰ひもは1つだけで充分であり同じものを2つ以上も持つということは不必要どころか、そのようにすることはケチな人間のすることだと考えている。我われがフォークを4～5コ持っているのを見て『そんなにたくさん持っているのであれば俺たちにくれ』とよく言っていた。

K. F.